

EAEのパスカー専務理事よりメッセージ

日本断熱住宅技術協会



▲EAEラルフ・パスカー専務理事

(一社)日本断熱住宅技術協会(田中辰明理事長)は5月22日、東京都・千代田区の平河町の会議室にて第14期総会を開催した。

議案審議では、第13期(2025年度)事業報告に関する件、第13期収支決算報告に関する件、第14期(2026年度)事業計画に関する件、第14期収支予算に関する件がすべて可決承認された。

なおこの総会には、同協会が業務提携を結んでいる欧州外断熱協会(EAE)のラルフ・パスカー専務理事より以下のメッセージ(田中理事長訳)が寄せられ、披露された。

「この手紙がご健勝のもとに届きますことをお祈り申し上げます。2025年11月にイタリア・ミラノで開催されました欧州ETICSフォーラムにおいて、貴殿が専門家代表団とともにご参加くださったことに、改めて深く感謝申し上げます。弊会の会員および多くの参加者にとりまして、貴殿ならびにご同僚の方々とお会いし、日本および欧州における断熱に関する最新の動向について意見交換ができましたことは大変有意義なものでした。また、講演やパネルディスカッション、さらにスポンサー各社のブースで共有された情報

もご興味深いものであったことと存じます。講演資料、録画、写真はEAEのウェブサイトよりご覧いただけます。

欧州ETICSフォーラム以降、政治的意思決定はさらに進展しており、以下の非網羅的な例がそれを示しております。

- ・欧州の首脳はEU気候法の改訂に合意しました。これは当初より、2050年までの脱炭素化への道筋における中間目標を設定するために想定されていたものです。1990年比で2030年までに温室効果ガス排出量を55%削減するという目標は維持された一方、新たに2040年までに90%削減する中間目標が設定されました。EU加盟27か国は、この目標を達成するための具

体的な道筋を策定することが求められています。

- ・建築物エネルギー性能指令(EPBD)は、EU政策における重要な柱の一つです。建築ストックだけでEU全体のCO₂排出量の36%、エネルギー需要の40%を占めているためです。この分野は気候法で定められた目標達成に大きく寄与する潜在力を有しています。化石燃料を用いた暖冷房機器を電動化する前に、まず断熱によってエネルギー消費を大幅に削減することが不可欠です。同時に、依然として化石燃料依存の電力供給を再生可能エネルギーへと転換していく必要があります。EU加盟国は国家建築改修計画を策定し、強化されたEPBDの要件に合わせて国内法を整備

しなければなりません。特に性能の低い建物から優先的に対応することが重視されており、これは気候対策に資するだけでなく、建物の断熱性能向上によりエネルギー費の上昇から脆弱な世帯を守ることにもつながります。

最近のペルシャ湾周辺における地学的動向は、化石燃料供給および価格ショックに対する欧州の脆弱性を、政策決定者および一般市民

の双方に改めて認識させました。これにより、エネルギー安全保障およびエネルギー自立の問題が再び主要な議題の最前線に浮上しています。2026年4月13日のプレスリリースにおいて欧州委員会委員長ウルズラ・フォン・デア・ライエンは次のように述べています。『紛争開始から

44日間で、化石燃料輸入の支出は220億ユーロ以上増加しました。44日で220億ユーロ、しかし追加のエネルギーは一分子も得られていません。これはこの危機が我々の経済に及ぼす甚大な影響を示しています。さらに、『第三の要素は需要の削減です。最も安価なエネルギーとは、そもそも使用しないエネルギーであるからです。消費者の自由な選択を尊重しつつ需要を削減すべきです。建物の改修や産業設備の更新といったエネルギー効率向上の手段に注目しています』。とも述べています。

湿式外断熱システム(ETICS)は、上記の目標達成において重要な役割を果たす必要があります。外壁面は通常、建物外皮の中で最大の面積を占めるため、外壁からの熱損失を最小化することは、建物のエネルギー需要を直ちに低減させ、結果として温室効果ガス排出量および消費者のエネルギーコストを削減します。また、建物のエネルギー需要を低減することは、再生可能エネルギーへの移行を容易にし、エネルギー輸入の混乱に対する経済の脆弱性を低減することにも寄与します。

さらにETICSはそれ以上の利点を有しています。ドイツでの実地調査により、その卓越した耐久性が実証されています。このことを踏まえ、ドイツおよびいくつかの国の当局は、ETICSの基準耐用年数を50年以上と認めています。この長寿命とライフサイクル全体での温室効果ガス削減効果は、ETICSを用いて新築または改修された建物の環境持続性に大きく貢献します。

また、ETICSは室内環境および居住快適性を大幅に向上させ、居住者の健康と福祉にも寄与します。イタリアの設計者への調査では、これ

もETICSを採用する重要な理由の一つとして挙げられています。

ETICSの利点に関するより詳細な概要は、当協会のウェブサイトにてご覧いただけます。これらの利点は欧州に限らず、世界のあらゆる市場に適用されるものと私どもは強く確信しております。ETICSは、地球温暖化の緩和に寄与しつつ、居住快適性の向上、経済の強化、さらには不動産価値の維持・向上にも重要な役割を果たし得るものです。

EAEおよびその会員を代表し、日本住宅断熱技術協会2026年総会のご成功と皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。今後とも連絡を取り合い、より良い地球環境のための建築ソリューションについて継続的に意見交換できますことを楽しみにしております」